

静岡県伊豆半島におけるキバナガデオキスイ *Carpophilus (Myothorax) mutilatus* Erichson, 1843 の記録と生息環境についての知見

伊藤直哉¹⁾・半田宏伸²⁾・久松定智³⁾

¹⁾ 〒 994-0016 山形県天童市東久野本 (naoya.ito9.21@gmail.com)

²⁾ 〒 369-1305 埼玉県秩父郡長瀬町長瀬 1417-1 埼玉県立自然の博物館

³⁾ 〒 790-0003 愛媛県松山市三番町 8-234 愛媛県立衛生環境研究所生物多様性センター

The Record of *Carpophilus (Myothorax) mutilatus* Erichson, 1843 (Nitidulidae, Carpophilinae) in the Izu Peninsula, Shizuoka, Central Honshu, Japan with its Biological Knowledge

Naoya Ito¹⁾, Hironobu Handa²⁾ and Sadatomo Hisamatsu³⁾

¹⁾ Higashi-kunomoto, Tendo-shi, Yamagata, 994-0016 Japan

²⁾ Saitama Museum of Natural History, 1417-1 Nagatoro, Nagatoro-machi, Chichibu-gun, Saitama, 369-1305 Japan

³⁾ Biodiversity Center, Ehime Prefectural Institute of Public Health and Environmental Science, 8-234 Sanbancho, Matsuyama-shi, Ehime, 790-0003 Japan

Summary. *Carpophilus (Myothorax) mutilatus* Erichson, 1843 is cosmopolitan species, which is distributed throughout the tropical, subtropical, and milder temperate climate regions of the world. This species is known as pest of stored products such as grain in Japan, while regarded as agricultural important pest of the various fruit in the world. The species has only been recorded in Ryukyu Islands and Central Honshu (Kanagawa and Shizuoka Pref.) in Japan, and the latter records could have been invaded from other areas in recent years. In this paper, the species is recorded from citrus orchard, the Izu Peninsula, Shizuoka Pref. Some adults of the species boring into the citrus fruit on the tree were observed through fieldworks, suggesting that the species is agricultural potential pest of the fruit.

緒言

キバナガデオキスイ *Carpophilus (Myothorax) mutilatus* Erichson, 1843 はケシキスイ科デオケシキスイ亜科に属する甲虫で、汎世界的に分布することが知られる(久松, 1985; Jelinek & Audisio, 2007). 本種は日本国内では主に琉球列島に分布するが(久松, 1985; 東, 2002), これまで本州の神奈川および静岡の2県からも採集事例が報告されている(平野・岩田, 2002; 石川, 2016). 本種は国内において貯穀を食害する害虫として知られるが(日本応用動物昆虫学会, 2006), 海外では、ヤシ類, 穀類, 核果類などの果実を加害することから重要農業害虫として認識され(Gaven, 1964; Tate & Ogawa, 1975; Kehat *et al.*, 1983), さらに, モモ・スモモのような核果類果実に対し, 病原菌を媒介する重要なベクターとしての側面も知られる(Tate & Ogawa, 1975).

第一著者の伊藤は静岡県伊豆半島を訪れた際, カンキツ園にて本種を確認した. また, 第二著者の半田も同じく伊豆半島にて同様にカンキツ園付近で本種を多数確認した.

本稿では, 本種を静岡県から再記録し, 現地での採集地周辺の状況について併せて報告する.

材料と方法

第一著者の伊藤は2015年5月に静岡県伊豆半島(沼津市内浦重須)に, 第二著者の半田は2013年5月に同じく伊豆半島(沼津市井田)にて現地調査を実施した. いずれもカンキツ園周辺で調査を実施し, それぞれ樹上果実, 落果集積所を確認した.

結果

それぞれの採集地から計20個体のキバナガデオキスイを採集した. 以下に採集データを記し, 採集者名は以下の通り略記する: 伊藤直哉(NI), 半田宏伸(HH). なお, 得られた標本は伊藤の個人コレクションとして管理している.

キバナガデオキスイ *Carpophilus (Myothorax) mutilatus* Erichson, 1843 (Fig. 1)

18 exs., 沼津市井田, 30. V. 2013, HH. ; 2 exs., 沼津市内浦重須, 20. V. 2015, NI.



Fig. 1. *Carphophilus (Myothorax) mutilatus* Erichson, 1843 (♂, Izu Peninsula, Shizuoka).
Scale bar = 1.0 mm.

考察

静岡県において、本種は静岡市から石川 (2016) によって既に報告されており、今回の記録は静岡県内では2例目、伊豆半島からは初めての記録となる。ただし、石川 (2016) によって扱われた標本は1998年に採集された個体であり、これは当時本種が本州から発見された初の例であると考えられる。また、上記記録によれば、当時はモモの腐敗果から多数の個体が確認されたものの、その後再確認には至っていないと記述されている。そのため、今回の報告は静岡県内では約20年ぶりの記録となる。本州では静岡県の他、神奈川県からも本種の記録があり(平野・岩田, 2002)、正式なものとしては神奈川県からの記録が本州初となる。上記記録では1個体に基づいて記録されており、同県では稀な種とみなされている。本種は国内では本来、琉球列島からのみ知られていたが(久松, 1985)、上記のように近年本州から記録されるようになったことから移入による分布拡大の可能性が



Fig. 2. *Carphophilus (Myothorax) mutilatus* Erichson, 1843, boring into the citrus fruit on the tree (Uchiuraomosu, Numazu-shi, Shizuoka, 20. V. 2015).

考えられる。ただし、散発的な記録であることから、定着の有無について明言はできないが、本種はコスモポリタン種であるため、本州への定着も想定され、今後の調査次第でさらなる追加記録が得られる可能性が考えられる。

調査が実施された2か所の採集地の内、沼津市井田ではカンキツ類の落果が果樹園付近に集積されており、腐敗した果実に本種が多数群がっている様子が観察された。一方、沼津市内浦重須では、樹上のカンキツ類果実に本種が穿孔している様子が確認されており (Fig. 2)、カンキツ園が本種の発生源となっていると考えられる。ただし、内浦重須の周辺ではカンキツ類が多く栽培されているものの、調査時その一帯の樹は開花期であり、本種が穿孔していた果実の樹も周辺同様多数の花をつけている状況であった。カンキツ類には多くの品種があるが、秋～早春にかけて収穫期を迎える品種が多いことから、本種が穿孔していた果実は結実後収穫されずに樹上に残された古いものであると推察される。また、沼津市井田の採集地周辺も同様に開花期を迎えた樹が多数確認されており、本地の集積されていた果実も収穫期から外れたものと考えられる。本報告では全ての個体が5月下旬に採集されており、少なくとも沼津市内浦重須の周辺ではカンキツ類の収穫期から外れていたため、本種による果実生産への被害は現段階においては不明である。国内において本種は果実害虫としての認識は低いが、海外では様々な果実の害虫として認識されているため (Gaven, 1964; Tate & Ogawa, 1975; Kehat *et al.*, 1983)、上記採集地においても本種によるカンキツ類への加害の可能性は捨てきれない。国内では、ヒメヒラタケシキスイ *Epuraea (Epuraea) domina* Reitter, 1873 や マメヒラタケシキスイ *E. (Haptoncurina) paulula* Reitter, 1873 などヒラタケシキスイ類がカンキツ類の花に訪花することで、傷果を生じさせる訪花害虫として既に知られているが (長浜・河野, 1972)、カンキツ類の果実害虫として位置づけられているケシキスイは現在のところ報告されていない。静岡県は伊豆半島を含めカンキツ類の栽培が盛んであるため、今後の害虫管理の観点からも、本種の分布および発生状況には注視する必要がある。

引用文献

- 東 清二 (監修), 2002. 琉球列島産昆虫目録. 570 pp. 沖縄生物学会, 西原.
Gaven, M. J., 1964. *Carphophilus* beetles as a pest of peaches. Journal of the Entomological Society of Australia (N.S.W.), 1: 59-62.

久松定成, 1985. ケシクスイ科. 黒沢良彦・久松定成・佐々治寛之 (編著), 原色日本甲虫図鑑 III, pp. 174-197. 保育社, 大阪.

平野幸彦・岩田隆太郎, 2002. 藤沢市日大付近の珍しい甲虫数種. 神奈川虫報, (138): 47-48.

石川均, 2016. キバナガデオキスイ本州からの記録. 月刊むし, (549): 58.

Jelinek, J. & P. Audisio, 2007. Family Nitidulidae. In: Löbl, I. & Smetana, A. (eds.), Catalogue of Palaearctic Coleoptera. Vol. 4: Elateroidea-Derodontoidea-Bostrichoidea-Lymexyloidea-Cleroidea-Cucujoidea. pp. 459-491. Apollo Books, Stenstrup.

Kehat, M., D. Blumberg & R. N. Williams, 1983. Seasonal abundance of sap beetles (Coleoptera: Nitidulidae) in date plantations in Israel. Phytoparasitica, 11 (2): 109-112.

長浜正照・河野通昭, 1972. ポンカンの外観阻害要因について (第1報) 訪花害虫, 特にケシクスイ類の被害について. 九州病害虫研究会報, 18: 63-65.

Tate, K. G. & J. M. Ogawa, 1975. Nitidulid beetles as vectors of *Monolinia fructicola* in California stone fruits. Phytopathology, 65: 977-983.

日本応用動物昆虫学会 (編), 2006. 農林有害動物・昆虫名鑑増補改訂版, 387 pp. 日本応用動物昆虫学会, 東京.

(2019年1月28日受領, 2019年5月2日受理)

【短報】長野県におけるニセコウベツゲンゴロウの記録

ニセコウベツゲンゴロウ *Laccophilus yoshitomi* Watanabe et Kamite (以下ニセコウベと記す) は, 国内から発見された12種目のツツゲンゴロウ属の種であり, 本州 (秋田県・山形県・宮城県・石川県) および九州 (福岡県) から記録されている (Watanabe & Kamite, 2018). ニセコウベは同属のコウベツツゲンゴロウ *L. kobensis* Sharp (以下コウベと記す) の既知記録の中に混同されている可能性があることから, 内田ほか (2018) により報告された長野県産のコウベを渡部が同定したところ, ニセコウベであることが判明した. 本報告では, 内田ほか (2018) が報告した長野県大町市のコウベの記録を抹消するとともにニセコウベの記録として改めて報告する.

6 exs., 長野県大町市平の湿地, 7. VII. 2017, 内田大貴採集.

内田ほか (2018) がコウベとして記録した4個体と同日に採集した2個体 (計6個体) を検視したところ, これらは全てニセコウベであった. 採集環境は樹林



図1. 長野県産ニセコウベツツゲンゴロウ.

に囲まれた薄暗い小規模湿地であり, 水深は10 cm程度で透明度が高く, 水底には枯葉などの有機物が多く堆積していた. 同地では, ニセコウベの他にナガケシゲンゴロウ *Hydroporus uenoi* Nakane が同所的に確認されている (内田ほか, 2017). ニセコウベの基準産地 (石川県) においてもナガケシゲンゴロウが同所的

に確認されており (Watanabe & Kamite, 2018), 両種の生息環境には類似する点があるのかもしれない.

末筆ながら調査にご協力頂いた茨城大学広域水圏環境科学教育研究センターの大森健策氏, 山崎和哉氏, 石塚隆寛氏にお礼申し上げる.

引用文献

内田大貴・大森健策・石塚隆寛, 2017. 長野県大町市で採集されたナガケシゲンゴロウの記録. 月刊むし, (562): 27-28.

内田大貴・大森健策・石塚隆寛・山崎和哉, 2018. 長野県大町市でコウベツツゲンゴロウを採集. 月刊むし, (567): 59-60.

Watanabe, K. & Y. Kamite, 2018. A new species of the genus *Laccophilus* (Coleoptera, Dytiscidae) from Japan. Elytra, New Series, Tokyo, 8: 417-427.

(内田大貴 311-2402 潮来市大生 1375 茨城大学
広域水圏環境科学教育研究センター魚類学研究室)
(渡部晃平 920-2113 白山市八幡町戌3
石川県ふれあい昆虫館)

会員の皆様へ (追加)

会員の皆様へ学会発行物を無事にお届けするため, 住所を変更された場合は必ず長谷川道明会計担当役員 (E-mail: hasegawa-michi@msi.biglobe.ne.jp) にご連絡くださるよう, 前号33号でお願いしました.

学会年会費を支払う振込用紙に変更後の住所を記入されましても, 会員名簿上の住所は変更されません. お手数ですが, 住所を変更された会員の方は長谷川道明会計担当役員にその旨直接連絡くださるよう, 重ねてお願い申し上げます.